

夢追い人

人を育てる、未来をつくる

株式会社富士商会

専務取締役 木村 亮介 さん

住所 〒831-0004

大川市大字榎津300-1

TEL 0944-8615121

FAX 0944-8712533

HP : <http://www.fujishoukai.jp>

今月の夢追い人は、株式会社富士商会 専務取締役 木村亮介さんにお話を伺いました。(株)富士商会は、一般鋼材・鋼材加工・機械工具・塗料を扱う鉄鋼卸売業者であり、現在は29名の従業員がいるそうです。

改めて事業内容を教えてください。

「富士商会は、いわゆる鋼材屋として、一般鋼材の販売を



本社全景

はじめ、加工や機械工具、塗料などを取り扱っています。お取引先は、建築関係を中心に、製缶工場や機械製作、配電盤関連の会社など幅広くいらっしゃいます。中でもメインになるのは鉄工所さんで、その中でも特にウエイトが高いのが、建築関係の鉄骨屋さん。非住宅系のビルや施設向けが多く、大川市内の建物にも、実はうちから出した鋼材が使われていることがよくあります。ただ、完成した建物を見ても、その中に自分たちの製品が使われていることは見えないですね。少し寂しい業界でもあります。」

多方面とお取引のある富士商会さんですが、強みはどのような部分でしょうか。

「弊社は自社でトラックを持っているので、自便での配送

ができる点が大きな強みです。大手の上場企業さんだとトラックをチャーターして、できるだけたくさん積んで、いくつかの納品先を回るという合積みスタイルが多いんですね。そうすると、どうしても即納という部分が弱くなってしまう。その点、弊社は自社トラックを走らせられるので、小ロットでも柔軟に対応できますし、スピード感では負けません。急ぎのご相談にも、できる限り応えられるようにしています。」

元々は、鉄事業部門と家具資材部門の2つの柱で事業をされていたそうですが、今は鉄事業一本に絞られたそうです。きっかけは何かあったのでしょうか。

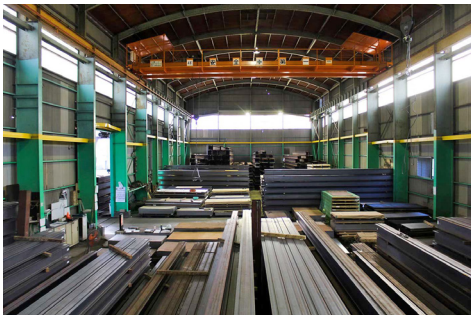
「きっかけは、加工を外注していたことで富士商会さんは



納期に時間がかかるといったお声をいただいたことでした。ニーズはあるものの、建築業界ではやっぱり納期が最優先なので、どうしても失注につながってしまいました。そこで加工も自社でやろうとなったとき、作業スペースがどう



倉庫外観



倉庫内

しても足りなかったんです。結果的に家具資材部門をやめて、その空いたスペースを加工の場として活用することになりました。ちょうどその頃は建築需要が高まっていて、鋼材が全国的に不足していました。特に建築用のボルトが不足していた時期がありまして、そのときには、今までお取引がなかったような会社さんからも声をかけていただくことが増えました。というのも、一般的な鋼材屋さんにはボルトを在庫していないところが多いんですが、うちは常に在庫していました。すぐに供給できる体制があることは、お客様にとっても安心材料になっていたと思いますし、そこが一つの強みでもありましたね。」

安全管理はどのようなことを取り組まれていますか。「安全に関しては何よりも優先しています。現場に常に立ち会えるわけではないからこそ、繰り返し伝えるようにしています。効率も大切ですが、それ以上に安全が第一です。問題があればすぐに改善するように、日頃から意識づけをしています。クレーン作業では重さの感覚がわかりづらくなることがあるので、基本では

ありますが、左右・前後の確認や、極力高く持ち上げすぎないことを徹底しています。また、倉庫内の整理整頓や、万が一のときの連絡体制の整備も欠かせません。常に緊張感を持って、作業に取り組むような心がけています。」

木村さんが家業に入られたのは、どのような経緯があったのでしょうか。

「正直、もともと家業を継ぐつもりは全くありませんでした。幼い頃は鉄を扱っている会社」という漠然とした認識しかなく、楽しい仕事という印象も持っていませんでした。家業に入るきっかけになったのは、父が社長になったとき、会社を長年支えてくださったっていった経理部長の方が病気を患われたことです。父から「戻ってきてくれないか」と初めてお願いされました。大学進学のとくに好きなことをさせてもらったこともあり、家業の為に頑張ってみようと思いましたが、なかなか大学では家業とは全然関係のない分野を専攻していたので、そこから経理を勉強し、会計事務所での修業も経験しました。実際、会社や業界のことを本格的に知ったのは、家業に戻っ

てきてからのことです。」

令和7年度の大川木材青壮年会（以下、木青会）の会長を務めてある木村さん。木青会についてもお話を伺いました。「木青会の主な活動は、木工まつりでの「ちびっこ木工工作コンクール」や「親子木工教室」の開催。そして毎年、市内の小学校で順番に行う木育授業では、大川の木工の歴史や木の魅力を子どもたちに伝えていきます。授業内容は毎年少しずつ工夫を凝らしている、木を使った実験や観察など、理科の授業のような要素も取り入れていますね。今現在、木を扱っていない会社なので、木青会の会長を務めるのは正直なところ歴代でもかなり珍しいケースだと思います。ただ、以前家具資材部門があった頃にお声がけをいただいたご縁もあり、大川に恩返しをしたい」という思いで加入しています。実際に木青会を離れてしまうと、大川市内の情報が入ってこなくなるので、今では地域とのつながりを保つ大切な場になっています。木青会の中で自分自身が学べることや、会社を持ち帰って活かせるような経験があれば、きっと大きな財産

になると思います。ぜひ学びの場として木青会に加入し、活用していただきたいですね。」

事業だけでなく、木青会活動でも活躍されてある木村さんですが、そんな木村さんの夢はなんでしょうか。

「現場で働く人たちがそが会社の主役だと思っています。だからこそ、人を育てていくことがとても大事です。目標を持つてもらって、やりがいを感じてもらいたいですね。どの業界でもそうですが、これからますます人手が減っていく社会になっていく。10年、20年後には、自分もこの会社や業界の第一線にいる年齢ではなくなっているかもしれません。だからこそ、自分一人頑張ればなんとかなるのではなく、人で会社を回している体制づくりが必要だと思っています。会社でも、そして木青会でも、人を育てることがこれからの目標です。全員が完璧じゃなくてもいいので、それぞれがその場その場で求められる人間であれば、それが一番いいバランスなのかもしれない。人を育てる」と言いながら、自分自身もまだまだ育っていないといけないですね。」